

宮古島との 五十年の きずな

きずなの 始まり

沖繩が「琉球」と呼ばれていた時代

中国山地に抱かれた津山が、なぜ南の島と交流することになったのか。その歴史は沖繩県がまだアメリカ合衆国の占領下にあり、琉球政府が置かれていた時代までさかのぼります。

昭和38年（1963）、沖繩県平良市（現在は宮古島市）の平良第一小学校から校長が、当時の琉球政府の派遣研修で、津山市立南小学校に訪れます。同じ年、この訪問がきっかけとなり、両校は姉妹校縁組を結びます。

これを機に、津山市民の沖繩本土復帰への関心が高まってきました。

市議会が沖繩の本土復帰の要望を決議

昭和39年3月、津山市議会は、全国の市議会として初めて「祖国復帰早期実現に関する要望決議」を満場一致で可決し、当時

の政府や国会などへ沖繩の本土復帰への要望を行いました。この津山市の動きを受け、平良市長が来訪します。平良市長は、要請に対する感謝の意を表し、両市の姉妹都市縁組を提案しました。そして、昭和40年3月、津

山市は平良市と姉妹都市縁組を結んだのです。同じ年、宮古青年会議所と津山青年会議所も縁組を結び、津山と宮古島の交流の輪が広がっ

ていきます。昭和47年、沖繩の本土復帰が現実のものとなった際には、多くの市民が復帰を祝いました。

皆さんは、沖繩県宮古島市が津山市の姉妹都市ということをご存じですか？
平成26年度は、姉妹都市縁組を結んで50周年を迎え、両市で記念事業を行います。
今回の特集は、交流の歴史を振り返り、記念事業の内容を紹介します。



エメラルドグリーンに輝く沖繩の海に、東洋一きれいといわれる砂浜と大きな空。津山から南西に約1400キロ。台湾と目と鼻の先で日本の最西端にほど近いところに宮古島があります。



宮古島市プロフィール
面積 204km²
人口 約55,000人
年間平均気温 23℃
年間平均湿度 80%



市花
ブーゲンビレア

宮古島



宮古島キャラクター
「みーや」



多くのダイビングスポット



全日本トライアスロン
宮古島大会



島バナナ



マンゴー

